

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 吉岡 亘

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

講義では公衆衛生学に含まれる環境衛生学を、実習では環境衛生学ならびに食品衛生学分野を教えている。地球環境・地域環境・衛生学・公衆衛生の歴史と現状を学ぶことで、受講者が、ヒトと動物の生命・生活を衛(まも)ることができるようになることを目指す。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医学概論	獣医学科	必修	1	135
獣医公衆衛生学(環境衛生学)	獣医学科	必修	4	134
獣医公衆衛生学実習II	獣医学科	必修	4	131
公衆衛生学	動物応用科学科	選択	4	55
総合獣医学	獣医学科	必修	6	132
獣医学特論II	獣医学科	必修	6	1
卒業論文	獣医学科	必修	6	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

講義では、現在および未来のよい選択の基盤となる知識を身につけられるように、過去の事例を学ぶ。また、変わりゆく制度や基準について、最新の情報を伝えるとともに、その背景にある考え方を合わせて伝えることで、ものごとを整理して理解できるようにする。加えて、必要な情報を得る手段についても学べるようにする。

実習では、環境衛生や食品衛生における検査および評価に取り組むことで、それらの原理について実感を伴う理解を得ることを目指す。目指すべきあり方として、より具体的には、手技を身につけ、実践上で生じる問題を解決し、データのバラつきや想定外の結果について理解し適切に対処できるようにする。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

過去の事例および現時点の制度は、効率よく学べる形によく整理して提示する。その上で、経緯や理由については、試行錯誤して考える時間をしっかり設ける。また、理解を問う小試験をできるだけ積極的に実施する。総合して、必要な知識を要領よく獲得した上で出来るだけ深い理解が得られるようにする。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

実習科目ではレポート課題を設定し、講評を返すようにしている。講義科目では小テストを実施し、提出後すぐに結果を提示するとともに繰り返し取り組めるようにしている。これらのことによって理解が得られるまで自主学習できる。

(2) ICTの教育活用

有

講義内容をまとめた電子ファイルを提供し、紙資源を節約し、また、資料内検索による効率的な学習ができるようにしている。小テストはウェブ上で受けられる。結果は自動で即時提供し、短い期間で繰り返して集中的に学べるようになっている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

問いかけや疑問を提示して考えさせる時間を設けるようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

B

小テストを繰り返し受験可能として最高点を採用するようにしたことから、小テストの正答率から理解度を把握するのが難しくなった。この点に関しては来年度の課題としたい。講義時に問いかけをして考える時間を設けることである程度は理解の程度を推し量れるが充分ではないように感じている。定期試験の正解率が低い問題に関わる事項は理解度が低いものとして次年度に対策を講じるようにしている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

自習課題として、レポート課題や小テストを設定している。これらのことにより能動的な学習を促している。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

質問に対しては丁寧かつ機を逸しない内の回答を心掛けている。回答は質問者のみならず受講者全体にいきわたるようにLMSに掲示している。なお、掲示の際には質問者は匿名化している。

（５）双方向授業への工夫

B

講義資料を穴埋めにした上で問いかけるといった工夫をしている。講義中よりも講義後の方が質問は多く、今後も講義内のみならず講義外でも質問し易い雰囲気を作っていきたい。今後はLMS上での質問を受け付けていることもアナウンスするようにする。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

実習では、国家試験に取り上げられた検査方法および取り上げられそうな器具を用いるなどしている。これらについてまとめた資料を6年生に対して提供した。その後、資料に含めた器具・検査について国家試験で出題された。

講義では、国家試験で問われやすい国際条約や時事的な事柄などについて重点的に解説している。昨年度の報道に基づいて新たに加えた特定外来生物は国家試験で出題された。

小テストや定期試験は国家試験の形式や内容を踏まえて作っている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

レポートに講評することについて前向きな反応が多い。そこで、レポートへのフィードバックの機会をできるだけ作るようにしている。また、小テストに繰り返し取り組めることに対する評価が高い。これらについては同様のやり方を継続している。

実習に関して時間が長くかかることがあるという指摘があった。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

レポートに対する講評や小テストを繰り返し受けられることについて、継続して前向きな評価を得ている。実習が長くかかることがあることについても毎年指摘がある。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

時間を要する実技であっても経験と技術修得は重要なのでやむを得ない部分はあるものの、実習資料をできるだけ早く提供して予習できるようにしたいと考えている。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業資料をできるだけ早く提供する。講義内容を詰め込み過ぎないように注意を払い、説明に軽重を付けるようにする。課題やテストを分析し理解しづらい部分をより丁寧に解説するようにする。試験の各問題の難易度を低いものから高いものまで用意し、様々な理解・習熟度合いの受講生を適切に評価できるようにする。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

受講者から、授業スライドがよいというフィードバックが複数あった。内容については分かり易いという指摘と分かりづらいという指摘がある。定期試験の問題数を増やし難易度の高いものも含めたことで平均GPAはこれまでより下がりヒアリング対象となった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

FD研修「ティーチング・ポートフォリオ（ブラッシュアップ研修）」（2023年度）を受講している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

講義について、短期的には、内容の過不足がないか見直しを続ける。その上で、体系立てた構成になるように再編を続ける。長期的には、授業内容を詰め込むよりも、自分で調べて理解していくことが身につけられる授業を目指す。実習では、原理原則が理解できるような解説と実際に行う実習とを組み合わせ、実感を伴う理解が得られることを目標とする。これらの目標は次第に前進していると感じている。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバス、學理での小テスト、レポート課題、試験問題、講義資料、授業評価アンケート結果、講義受講生からのメールでの質問とその回答